

第三者意見

ミネベアグループCSRレポートを拝読して



株式会社日本政策投資銀行
産業調査部長

竹ヶ原 啓介氏

ミネベアグループCSRレポート2016は、ESG*の各分野をバランスよく、かつ詳細に記述するこれまでのスタイルを踏襲しつつ、内容面では、貴社CSRの更なる前進をしっかりと伝えていきます。今回の変化のポイントは、巻頭のトップコミットメントに端的に示されています。まず、経営の基本方針として、貴社のCSRを規定していた「五つの心得」が社是に格上げされ、ステークホルダーの期待を反映した価値創造を、グループを挙げて追求していく姿勢が明確に打ち出されました。これを受けて、海外拠点を含むグループ全体でCSR戦略を進めるための体制整備と、ステークホルダーとの直接対話という、報告書を通底する2つの主題が浮かび上がります。

グループ横断的な体制強化の取り組みは、中国・上海ミネベアでの取り組みを紹介する巻頭特集により、貴社を語る際のキーワードでもあるグローバル化に絡めて具体的に例示されています。しかし、貴社の凄みは、中国拠点でのCSR調達調査が示すように、CSR体制強化の一環として広くサプライチェーンまで見据えている点に求めるべきでしょう。海外拠点におけるサプライチェーン管理は、CSRのパウンダリー*を考える上で重要なテーマながら、わが国では、まだ情報開示例も少ないだけに、印象的なコンテンツです。

ステークホルダーとの直接対話を重視する姿勢は、昨年

の米子工場に続いて浜松工場で行われた対話にみられるように、「地域」を対象に着実に深まっているほか、今号では、「従業員」に対してより顕著になりました。上海やグローバル人材の事例紹介で具体的に示されている、ダイバーシティや人材育成、働きやすさ（ワークライフバランス、健康管理）など多岐にわたる取り組みを、離職率や時間外労働などの関連データと合わせて開示している点は、「従業員が誇りを持てる会社でなければならない」と定める五つの心得を文字通り体現しているように思います。

また、環境面では、増収基調のなかグループ全体のCO₂排出量を対前年比で総量で5%、生産高原単位で23%減少させるなど、デカップリング*が実現されています。先行してグループ横断的に運用されているEMS*が機能し、着実に成果を上げている事実は、CSRのグループ展開の今後を占う上での好材料といえましょう。

一方、今後については、研究開発や技術力に関する記載の一層充実を求めたいと思います。経営統合によるプロダクトポートフォリオの変化を控えることに加え、成長戦略ともいえるべき新「5本の矢」戦略や、CSR活動方針に掲げる「製品を通じた社会価値の創造」を体現し、貴社の特徴を最もよく示してくれる情報と考えられるためです。

※ESG：環境(Environment)、社会(Social)、ガバナンス(Governance)の頭文字をとったもの

※パウンダリー：組織の影響が発生する範囲

※デカップリング：一定の経済成長や便利さを維持しつつも、エネルギー消費を減らしていく、両者を「切り離す」という考え方

※EMS：Environmental Management Systemの略。環境マネジメントシステム

竹ヶ原 啓介氏

一橋大学法学部卒業後、日本開発銀行（現株式会社日本政策投資銀行）に入行。調査部や政策企画部、フランクフルト首席駐在員、環境・CSR部長等を経て、現職。その他、環境省「環境格付融資に関する課題等検討会」委員、「環境成長エンジン研究会」委員、内閣官房「環境未来都市推進委員会」委員、内閣府「環境未来都市推進ボード実施推進会議」委員などを務める。

第三者意見をいただいて



常務執行役員
人事総務本部長

松田 達夫

竹ヶ原様には本年度も大変貴重なご意見を賜り、まことにありがとうございます。当社グループのCSRへの取り組みの前進を評価いただき、大変うれしく思っております。

本年度のレポートでは、2つの特集記事として、電子機器製造本部の開発拠点である浜松工場周辺地域の皆様との

対話、および中国・上海ミネベアでのCSR活動を掲載しました。上海ミネベアの従業員や地域社会とののかかわり、および環境への取り組みは当社グループの社是「五つの心得」を体現する活動ではないかと思っています。

社会性報告のCSR調達に関する中国での取り組みの開示については、高い評価をいただきました。これに満足することなく今後もグローバルでのサプライチェーンの管理に取り組んでまいります。

ご指摘をいただきました研究開発や技術力についての記載は、次回のレポート以降で充実させていく所存です。また、2015年度CSR目標の未達成のものについては、今年度以降の課題と認識しており、改善の取り組みを続けてまいります。